

集まる場所

118 群馬県立高崎高等学校鉄道研究部

夏休み、東京に住む僕は家族とともに長野へ帰省した。近くの公園へ、両親と祖母も一緒に歩いて向かう。

ここは、小さい頃に、「電車を見よう」と祖母に連れて行ってもらった思い出の場所だ。祖母は「そこを“シンカンセン”と“ナガデン”と“シンエツセン”が通っている」と幼い僕に教えてくれた。

すぐ上を新幹線が音を立てて通過していく。弟が「おばあちゃん！ぼく、あの“シンカンセン”で、きたんだよ！」と言った。

祖母が「ばあちゃんのころは新幹線なんか無かったで、東京に行くときは信越線に乗ったんだわ。」と弟に話す。母も「私が長野の高校に行くときは長電に乗ってたんだよ。あの頃が懐かしいわあ」と言った。

東京に住む僕にとって、長野は“新幹線”で行くところ。でも、おばあちゃんにとっては信越線で、高校に通っていた頃のお母さんにとっては長電で行くところだった。

この場所は、僕たち家族の思い出が集まる場所だったのだ。